

2010 年(平成 22 年) 9 月 21 日(火)・22 日(水)・23 日(木)・24 日(金)

応用生態工学会 第 14 回札幌大会



<第 14 回総会・第 14 回研究発表会>

(同時開催)： 公開シンポジウム

『流域スケールでの生態系サービスの最大化 ～景観要素・物質循環・ハビタットを総合的に考える～』

ご 案 内

応用生態工学会では、来る 9 月 21 日、22 日、23 日、24 日に第 14 回札幌大会を開催します。
会員以外の皆様のご参加もお待ちしております。

・第14回研究発表会.....	9月22日(水)	13:00~17:00	「ポスター発表」
.....	9月23日(木)	09:30~15:15	「口頭発表」
・公開シンポジウム.....	9月24日(金)	13:00~17:00	
・第14回総会.....	9月24日(金)	11:00~12:00	
・懇親会(ホテル札幌ガーデンパレス 孔雀の間 TEL:011-261-5311) ..	9月23日(木)	18:30~20:30	
・エクスカージョン.....	9月21~22日(火・水)	10:00~	「積丹川」
・書籍販売(学会誌・専門書籍)	9月22~23日(火・水)		4F 大会議室
	9月24日(木)		かでのホール前

【会場】

北海道立道民活動センター かでの 2.7
〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目
電話:011-204-5100 (代)

J R:札幌駅(徒歩 12 分)

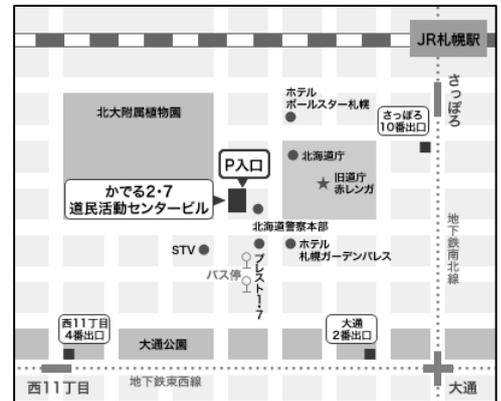
地下鉄:さっぽろ駅(10 番出口)

大通駅(2 番出口)

西 11 丁目駅(4 番出口)

<http://homepage.kaderu27.or.jp/intoro/access/index.html>

※懇親会:ホテル札幌ガーデンパレス 孔雀の間
(そば処神田札幌店より、変更になりました)



【参加料】

研究発表会に参加される方(講演者を含む)は、下記の参加料をお支払い下さい。

●研究発表会参加料

正会員・賛助会員:6,000 円(当日参加 7,000 円)、一般非会員:10,000 円、学生会員・学生非会員:3,000 円

●懇親会参加料:5,000 円(当日参加:6,000 円)

●エクスカージョン 1 泊 2 日参加料:一般 12,000 円, 学生 6,000 円

注 1) 会員は総会(9 月 24 日(金)11 時 00 分~12 時 00 分)に無料で出席できます。総会における議決権は正会員にしかありません。

注 2) 公開シンポジウム(9 月 24 日(金) 13 時 00 分~17 時 00 分)の参加料は、非会員も含めて無料です。

注 3) 研究発表参加料には、当日配布する講演集費用を含みます。

ただし、講演集のみ入手希望の方には、3,000 円で販売いたします。

注 4) 合計参加料は、参加者名を明記の上、指定口座(参加申込書に記載)にお振込み下さい。

注 5) 交通手段及び宿泊関係は、各自でご手配下さい。

注 6) 研究発表会・公開シンポジウムは会場の定員(300 名)で締め切ります、早めに申込下さい。

【参加申し込み】

参加申込みは、ホームページ上の申込フォーム等により、参加費用をお振込のうえ、お申込みください。ファックス・同等内容の E メールでも受け付けます。

参加申込用フォーム http://ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_con

【問い合わせ先】

応用生態工学会 事務局 仮谷 伏竜

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL. 03-5216-8401

FAX. 03-5216-8520

E-mail:sapporo-14th-meeting@ecesj.com

■本プログラムは、河川整備基金の助成を受けて作成しています。

【全体スケジュール】

■9月21日(火) 1日目

10:00～21:00 エクスカーション：積丹川流域(往路 21日現地での懇親会費用含む)

■9月22日(水) 2日目

7:30～12:30 エクスカーション：積丹川流域(復路 かでの会場へ移動)

12:30 開場、受付開始 【受付：4 F 大会議室前】

13:00～14:20 第14回研究発表会「ポスター発表：概要1分発表：68編」 【会場：7 F 710 会議室】

14:20～17:00 第14回研究発表会「ポスター発表：セッション1～9」 【会場：4 F 大会議室】

■9月23日(木) 3日目

9:15 開場、受付開始 【受付：1 F 110 会議室】

9:30～15:15 第14回研究発表会「口頭発表：セッション1～2」 【会場：4 F 大会議室】

9:30～15:15 第14回研究発表会「口頭発表：セッション3～5」 【会場：8 F 820 研修室】

10:00～15:30 現地自由集会（応用生態工学会 札幌 札幌の川で魚とり） 【会場：札幌市豊平川さけ科学館】

13:30～18:00 自由集会（応用生態工学会 札幌 ザリガニの保全） 【会場：5 F 520 研修室】

15:30～17:00 自由集会（応用生態工学会 COP10 対応WG

流域圏から考える生物多様性保全） 【会場：4 F 大会議室】

15:30～17:00 自由集会（応用生態工学会 若手の会 もっと読みたい事例研究） 【会場：10 F 1040 会議室】

15:30～18:00 自由集会（英語セッション Prof. Cliff Dahm との議論） 【会場：10 F 1030 会議室】

18:30～20:30 懇親会 【ホテル札幌ガーデンパレス 2階 孔雀の間】

■9月24日(金) 4日目

11:00～12:00 総会 【会場：かでのホール】

13:00～17:00 公開シンポジウム・パネルディスカッション 【会場：かでのホール】

【エクスカーション】

エクスカーション9月21日(火)～22日(水) -1～2日目- [場所：積丹川 上流～中流～河口]

(1) 日時

2010(H22)年9月21日(火) 10:00～21:00 (往路 懇親会含む)
～9月22日(水) 7:30～12:30 (復路 室内会場へ)

(2) 行先 …バス移動

積丹川(二級河川)の上流～中流～河口(日本海)

積丹川：流域面積 75.1 km²、流路延長 17.0 km(積丹町)

(3) コース

説明：柳井清治(石川県立大)、長坂有・長坂晶子(道林業試)、永田・ト部(道水産試)・池田宏(元筑波大)

一日目：JR 札幌駅北口集合出発 10:00

～小樽経由～積丹川上流(13:00、各自車中食用意のこと)

～積丹川中流～積丹川河口

～余別クラスセ 大広間でミニセミナー (17:00～18:30)

～懇親会 (19:00～21:00)

二日目：宿出発(7:30～8:00頃出発)

(岩内～仁木～余市～小樽～札幌の内陸回りルート予定)

仁木と余市川周辺で河畔林見学

～札幌「かでの2.7」到着 (12:30) ※ポスター発表者は別便でかでのに向かうことが可能です。

(4) 定員

80名 (バス2台)

(5) 費用 …一泊二日

一般：12,000円

学生：6,000円

(6) 連絡先

担当：勝又聖乃(かつまた きよの) メールのみ受付

アドレス：kikat.hokudai@gmail.com

※先着順。参加希望者が定員を超えた場合、お断りさせて頂くことがあります。ご了解下さい。

※22日帰りのバスは、12:30かでのホール到着予定です。22日のポスター発表は13:00開始となりますので、ポスター発表をされる方には別途お車を用意しますので、申込み時にお知らせください。

ポスター発表 9月22日(水) - 2日目 - 13:00~17:00		[会場: 7F710 会議室・4F 大会議室]
13:00~14:20	開会式・ポスター発表要旨説明 (概要1分発表:68編)	7F710 会議室
セッション1 底生動物		4F 大会議室
1-1	「重信川における外来生物フロリダマミズヨコエビの分布域拡大状況および侵入条件」:「研」	1
	杉原 達也*(愛媛大学大学院 理工学研究科), 江頭 麻美(愛媛大学 工学部), 三宅 洋(愛媛大学大学院 理工学研究科)	
1-2	「捕食圧を用いた特定外来生物カワヒバリガイの密度低減方法の検討」:「事」	3
	中野 大助*(財)電力中央研究所, 小林 卓也(同), 坂口 勇(同), 松本 寛(鎗川土地改良区)	
1-3	「河床間隙水域は攪乱時の避難場所として無脊椎動物に利用されるか?」:「研」	7
	酒井 亨*(愛媛大学大学院 理工学研究科), 中野 裕(同), 井上 幹生(同), 三宅 洋(同)	
1-4	「河床粗度による水生昆虫の着底効果について(I)-水槽実験-」:「研」	9
	斎藤 裕美*(東海大学), 谷野 賢二(同), 木村 仁美(同)	
1-5	「河床粗度による水生昆虫の着底効果について(II)-野外実験-」:「研」	11
	森田 英夫*(東海大学 生物理工学部 海洋生物科学科), 谷野 賢二(同), 斎藤 裕美(同)	
1-6	「緩勾配河川における絶滅危惧種ニホンザリガニの夏季生息場利用」:「研」	13
	石山 信雄*(北海道大学農学院 森林生態系管理学研究室), 永山 滋也((独)土木研究所自然共生センター), 赤坂 卓美(北海道大学農学院 森林生態系管理学研究室), 中村 太士(同)	
1-7	「北海道十勝地方の河川における水生昆虫による落葉の分解過程」:「研」	15
	平 香奈絵*(帯広畜産大学大学院 畜産学研究室), 岩佐 光啓(同), 工藤 晃央((株)ドーコン環境保全部)	
1-8	「北海道における洪水攪乱が河川底生動物群集に及ぼす影響」:「研」	17
	森 照貴*(自然共生研究センター), 齊藤 隆(北海道大学)	
1-9	「異なる表層地質を流域にもつ河川における底生動物群集」:「研」	19
	田代 喬*(名古屋大学大学院 環境学研究所都市環境学専攻), 辻本 哲郎(名古屋大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻)	
セッション2 魚類生息場と相互作用		
2-1	「河床付着膜の状態の違いがアユ、オイカワの摂食場利用に影響を与えるか?」:「研」	21
	皆川 朋子*(独)土木研究所自然共生研究センター, 萱場 祐一(同)	
2-2	「山地河川における人間活動が底生動物群集に及ぼす影響」:「研」	23
	上田 竜士*(愛媛大学大学院 理工学研究科), 杉原 達也(同), 菊地 修吾(同), 井上 幹生(同), 三宅 洋(同)	
2-3	「寝屋川流域における水生生物の生息状況とその環境」:「研」	25
	櫻井 邦学*(摂南大学 理工学部), 福浦 美咲(同), 石田 裕子(同)	
2-4	「佐渡島加茂湖沿岸帯における魚類生息状況に影響を及ぼす環境要因」:「調」	29
	柳 智博*(九州大学大学院工学府), 鹿野 雄一(九州大学大学院工学研究院), 中島 淳(福岡県保健環境研究所), 山下 奉海(Re ネットワーク), 島谷 幸宏(九州大学大学院工学研究院)	
2-5	「三峰川下流域に生息する淡水魚の濁水耐性」:「事」	31
	市川 哲生*(株)環境アセスメントセンター)	
2-6	「神通川におけるサクラマスの越夏場所の特性について」:「事」	33
	井上 創*(株)建設技術研究所), 千田 庸哉(同), 仮谷 伏竜(同), 稲葉 修一(同), 坂本 健太郎(同), 宮島 重保(国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所), 山崎 憲人(国土交通省北陸地方整備局企画部), 立野 祐輔(国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所)	
2-7	「遺伝情報を用いた魚道機能の検証」:「事」	35
	村岡 敬子*(独)土木研究所 水環境研究グループ), 須藤 勇二((独)土木研究所 寒地農業基盤研究グループ), 川辺 明子(同), 中村 和正(同), 三輪 準二((独)土木研究所 水環境研究グループ)	
2-8	「天然記念物ネコギギの微生物生息場所整備の一事例一再導入河川における潜在的な生息場所の評価と代替工法の考案と設置」:「研」	37
	佐川 志朗*((独)土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター), 後藤 健宏(いなべ市教育委員会), 田代 喬(名古屋大学大学院環境学研究室), 萱場 祐一((独)土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター)	
2-9	「再生氾濫原の有する魚類産卵場としての機能に関する研究」:「事」	39
	小崎 拳*(九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻), 島谷 幸宏(九州大学大学院工学院環境都市部門), 林 博徳(同), 中島 淳(福岡県保健環境研究所), 池松 伸也(九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻)	
2-10	「排水路における魚道の設置が魚類群集にもたらす影響と魚類の遡上、降下特性の解明」:「研」	43
	福島 純平*(新潟大学大学院 自然科学研究科), 石間 妙子(同), 高野 瀬 洋一郎(新潟大学 超域研究機構), 河口 洋一(徳島大学 工学部), 関島 恒夫(新潟大学大学院 自然科学研究科)	
2-11	「ドジョウはどのようなタイミングで遡上するのか? : 川から水路、水路から水田の場合」:「研」	45
	青山 直寛*(徳島大学大学院 先端技術教育部), 河口 洋一(徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部), 赤坂 卓美(北海道大学大学院 農学研究科), 鹿野 雄一(九州大学大学院 工学研究院), 池松 伸也(同), 島谷 幸宏(同)	
2-12	「小河川・農業水路系における魚類の種多様性と優先的保全サイトの選択」:「研」	47
	大平 充*(東京農工大学大学院 連合農学研究科), 西田 一也(農村工学研究所), 満尾 世志人(東京農工大学 農学部), 角田 裕志(同), 土井 真樹絵(東京農工大学大学院 農学府), 千賀 裕太郎(東京農工大学 農学部)	

セッション2 魚類生息場と相互作用

- 2-13. 「岐阜県養老地域の農業用水路における魚類群集」:「研」** 49
久米 学*(NPO 法人 流域環境保全ネットワーク/(独)土木研究所 自然共生研究センター),北村 淳一(NPO 法人 流域環境保全ネットワーク/三重県新博物館整備推進室),諸澤 崇裕(NPO 法人 流域環境保全ネットワーク/筑波大学大学院),皆川 明子((独)農研機構 農村工学研究所),柿岡 諒(京都大学大学院),張廖 年鴻(同),池谷 幸樹(アクアト岐阜),波多野 順(同),向井 貴彦(岐阜大学),森 誠一(NPO 法人 流域環境保全ネットワーク/岐阜経済大学)
- 2-14. 「小河川におけるタナゴ類の生息環境」:「研」** 51
滝口 晃(東京農工大学 農学部),千賀 裕太郎(東京農工大学 農学部)
- 2-15. 「ヤリタナゴ・マツカサガイの保全・復元のための水系管理手法に関する研究」:「研」** 53
山田 辰美*(富士常葉大学),法月 直也(富士常葉大学附属 環境防災研究所),関川 文俊(同)

セッション3 構造物と生息環境

- 3-1. 「河川護岸部の緑被の有無と湿潤度の多寡による春季・夏季における昆虫類の生息量比較実験」:「研」** 55
尾崎 正樹*((独)土木研究所 自然共生研究センター),相川 隆生(国土交通省 中部地方整備局 中部技術事務所),佐川 志朗((独)土木研究所 自然共生研究センター),久米 学(同),小野田 幸生(同),上野 公彦(同),萱場 祐一(同)
- 3-2. 「材料粒径と勾配を要因とした異なる斜面におけるヌマガエル、クサガメおよびサワガニの登坂実験」:「事」** 57
上野 公彦*((独)土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター),萱場 祐一(同),佐川 志朗(同)
- 3-3. 「瀬における物理的構造とそこに生育する付着藻類の分布」:「研」** 59
岡田 久子*(明治大学 農学部),倉本 宣(同)
- 3-4. 「両側回遊性魚類オオヨシノボリの生息密度に対するダムの影響:貯水池の有無による違い」:「研」** 61
川西 亮太*(愛媛大学大学院 理工学研究科),角崎 嘉史(同),井上 幹生(同),高木 基裕(愛媛大学 南予水産研究センター),大森 浩二(愛媛大学 沿岸環境科学研究センター)
- 3-5. 「紀の川岩出井堰上下流における水生生物群集の生息特性の変化」:「研」** 63
石田 裕子*(摂南大学 理工学部),津本 雄哉(同),壺林 裕士(同),松村 勇希(同),三雲 唱平(同),片野 泉(University Oldenburg),石塚 正秀(香川大学 工学部)
- 3-6. 「ダム・水力発電・用水取水による流況変化が矢作川のカワゲラ相に与えている影響」:「研」** 65
内田 臣一*(愛知工業大学 土木工学専攻),松下 毅大(愛知工業大学・院・建設システム工学専攻)
- 3-7. 「コンクリート河川における小規模水制群を利用した底生動物の生息場所の再生」:「研」** 69
久加 朋子*(京都大学工学研究科,水辺のフィールドミュージアム研究会),竹林 洋史(京都大学防災研究所),藤田 正治(京都大学防災研究所),大澤 剛士((独)農業環境技術研究所,水辺のフィールドミュージアム研究会),清水 洋平((株)浅沼組,水辺のフィールドミュージアム研究会),石田 裕子(摂南大学工学部,水辺のフィールドミュージアム研究会),佐々木 宏展(摂津第三中学校,水辺のフィールドミュージアム研究会),三橋 弘宗(人と自然の博物館,水辺のフィールドミュージアム研究会)
- 3-8. 「アユの餌となる付着藻類の質と量」:「研」** 71
内田 朝子*(豊田市矢作川研究所),梅村 麻希(愛知工業大学・土木工学専攻)
- 3-9. 「ダム河川中流域の河床環境の現状と時間変化、およびその要因」:「研」** 73
西明 剛*(北海道大学大学院 環境科学院),根岸 淳二郎(同),永山 滋也(土木研究所 自然共生研究センター),萱場 祐一(同)
- 3-10. 「淡水カジカの効果的な移植の検討~事例紹介~」:「研」** 75
宮島 泰志((株)建設技術研究所 九州支社 環境・都市部),宮崎 太(同),安形 仁宏*(同),中山 雅文(国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所 開発調査課),村岡 敬子((独)土木研究所 水環境研究グループ河川生態チーム),山下 慎吾(同)

セッション4 植物と鳥類

- 4-1. 「河川敷地に生息する草党性鳥類の繁殖状況と地形・植生との相互関係」:「研」** 77
坂元 直人*((株)エコテック),新庄 久尚(同),渋谷 裕和(同),関 将太郎(同),滝沢 太浩(同)

セッション5 陸生・水生植物

- 5-1. 「河原の埋土種子分布と植生成立要因について」:「研」** 79
大石 哲也*((独)土木研究所 自然共生研究センター),三輪準二((独)土木研究所 河川生態チーム),萱場祐一((独)土木研究所 自然共生研究センター)
- 5-2. 「植生の拡大・破壊・種間競争を考慮した河道横断面形状の形成機構」:「研」** 83
戸田 祐嗣*(名古屋大学大学院 工学研究科),前田 英樹(三重県),辻本 哲郎(名古屋大学大学院 工学研究科)
- 5-3. 「釧路湿原における植物群落の水文環境について」:「研」** 85
根岸 知子*(北海道大学大学院 農学研究科)
- 5-4. 「釧路湿原におけるハンノキ林の拡大に関する仮説の提案」:「研」** 89
堀岡 和晃*((株)ドーコン 河川環境部),傳甫 潤也(同)
- 5-5. 「里山における竹林伐採が植生に与える影響」:「研」** 91
井関 将基*(摂南大学 理工学部),讃井 彰吾(同),徳田 直己(同),石田 裕子(同)
- 5-6. 「農業用水路における水草の成長と栄養塩の保持、土砂の捕捉に関する評価 -琵琶湖に注ぐ湧水涵養水路における事例-」:「研」** 93
高橋 和也*(埼玉大学大学院 理工学研究科/応用地質(株)関西支社),浅枝 隆(埼玉大学大学院 理工学研究科),馬 東(同),内田 哲夫(同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

※タイトル後の「研」:研究報告,「事」:事例報告,「調」:調査報告,「他」:その他

ポスター発表 9月22日(水)ー2日目ー 13:00~17:00

【会場:4F 大会議室】

セッション5 陸生・水生植物

- 5-7. 「霞ヶ浦における沈水植物復元の取り組み」:「研」 97
今本 博臣*((独)水資源機構本社環境室水環境課), 大高 英澄((独)水資源機構利根川下流総合管理所), 村上 一徳(同)
- 5-8. 「レジャー用サイドスキャンソナーを用いた阿寒湖の水生植物分布調査」:「研」 101
藤島 洸*(北海道大学 農学部農業工学科), 山田 浩之(北海道大学 農学研究院), 中西 一洋(北海道大学農学院), 若菜 勇(阿寒湖畔エコミュージアムセンター マリモ研究室)
- 5-9. 「江の川上流における自然再生事業の取り組みについて」:「事」 103
大賀 祥一*(国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所), 中坪 孝之(広島大学大学院 生物圏科学研究科), 炭田 英俊(日本工営(株)流域・都市事業部 河川・水工部), 伊藤 一之(日本工営(株)大阪支店 技術第2部環境グループ)

セッション6 社会と流域

- 6-1. 「流域圏に散在する個別景観から生み出される生態系サービスとその保全に関する研究~伊勢湾流域圏を例にして~」:「研」 107
安佛 かおり*(名古屋大学大学院 工学研究科), 戸田 祐嗣(名古屋大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻), 辻本 哲郎(同)
- 6-2. 「農産物の環境ブランド化による無名な希少種の保全の試行~持続的な維持管理は可能か?~」:「事」 109
田代 優秋*(徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部), 鎌田 磨人(同)
- 6-3. 「札幌市豊平川におけるカムバックサーモン運動とサケの自然産卵の回復」:「事」 113
有賀 望*(札幌市豊平川さけ科学館), 鈴木 俊哉((独)水産総合研究センターさけますセンター), 佐藤 信洋(札幌市豊平川さけ科学館), 岡本 康寿(同), 前田 有里(同), 大熊一正((独)水産総合研究センターさけますセンター)
- 6-4. 「河川生息場評価ソフトを使って高校生と一しょにホタル水路を作った」:「事」 117
関根 雅彦*(山口大学大学院 理工学研究科), 小島 啓(同)
- 6-5. 「和泉川流域ワークショップが実施者及び参加者に与えた影響について」:「研」 121
吉富 友恭*(東京学芸大学), 吉田 晴乃(同)

セッション7 データベース

- 7-1. 「日本の河川における環境と生物多様性について」:「研」 123
都築 隆禎*((財)リバーフロント整備センター), 内藤 正彦(同), 毛利 雄一(同), 竹本 進(同), 吉田 邦伸(国土交通省河川局河川環境課)
- 7-2. 「過去の情報を新技術で俯瞰する -web マッシュアップ技術を用いた標本情報閲覧システム-」:「他」 125
大澤 剛士*((独)農業環境技術研究所), 吉武 啓(同), 中谷 至伸(同), 栗原 隆(同), 吉松 慎一(同)

セッション8 汽水・河口・干潟

- 8-1. 「瀬戸内海西部海域の汽水域における希少ハゼ類の水系スケールでの分布パターン」:「研」 127
乾 隆帝*(九州大学 農学研究院), 江口 勝久(佐賀県立海水産振興センター), 中島 淳(福岡県保健環境研究所), 鬼倉 徳雄(九州大学 農学研究院)
- 8-2. 「太田川放水路における河口干潟の生態工学研究」:「研」 129
後藤 勝洋*((財)リバーフロント整備センター), 内藤 正彦(同), 竹本 進(同), 阿部 徹(国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所)
- 8-3. 「盤洲干潟におけるハママツナ(*Suaeda maritima*)の生息環境に関する基礎調査」:「研」 133
湯谷 賢太郎*(木更津工業高等専門学校環境都市工学科)
- 8-4. 「亜寒帯汽水湖(火散布沼)の窒素循環過程における生物プロセスの役割」:「研」 137
菅 夏海*(北海道大学 環境科学院), 梶原 瑠美子(同), 小森田 智大(熊本県立大 環境共生学部), 柴沼 成一郎(北海道大学 環境科学院), 山田 俊郎((株)西村組), 門谷 茂(北海道大学 環境科学院)
- 8-5. 「亜寒帯汽水湖における渡り鳥が物質循環過程に与える影響評価」:「研」 139
関口 郁恵*(北海道大学・環境科学院), 柴沼 成一郎(同), 門谷 茂(同)
- 8-6. 「漢江(ハンガン)河口湿地砂洲の空間的変化推移に関する分析」:「研」 141
S. J. Jung*, H. K. Ahn(韓国建設技術研究院水資源環境研究部), S. H. Lee

セッション9 水質と物質循環

- 9-1. 「ニセアカシア落葉の河川・河口域における分解過程」:「事」 143
柳井 清治*(石川県立大学)
- 9-2. 「朝酌川の水門開閉による塩水の遡上」:「研」 145
小池 祐介*(島根大学 生物資源科学研究科), 倉田 健悟(島根大学 汽水域研究センター)
- 9-3. 「ダム下流における粒状有機物の起源変化に与える河床地形の影響」:「研」 149
中井 健太郎*(京都大学大学院 工学研究科都市社会工学専攻), 竹門 康弘(京都大学 防災研究所水資源環境研究センター), 角 哲也(同)
- 9-4. 「ダム堆砂の進行に伴う貯水池生態系の有機物起源の変化」:「研」 151
内藤 淳也*(京都大学 工学研究科), 角 哲也(京都大学 防災研究所), 竹門 康弘(同)
- 9-5. 「砂河川砂州の伏流水流動に伴う脱窒能の定量化~砂州植生の有無に着目して~」:「研」 153
尾花 まき子*(名古屋大学大学院 工学研究科), 野尻 晃平(名古屋大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻), 戸田 祐嗣(同), 辻本 哲郎(同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

9-7 発表番号の斜体は審査対象

※ タイトルの後の「研」は研究報告,「事」は事例報告,「調」は調査報告,「他」はその他

ポスター発表 9月22日(水) - 2日目 - 13:00~17:00

[会場:4F 大会議室]

セッション9 水質と物質循環

- 9-6. 「**牧田川上流域における伏流水温分布についての研究**」:「研」 155
 山下 理代*(大同大学大学院), 鷺見 哲也(大同大学)
- 9-7**. 「**都市河川における純淡水魚カワムツの安定同位体比と都市化の関連性**」:「研」 157
 富山 雄太*(九州大学大学院 工学府), 鬼倉 徳雄(九州大学 農学研究院), 島谷 幸宏(九州大学 工学研究院)
- 9-8**. 「**安定同位体比を用いた氾濫原水域での食物網解析: 木曾川の事例**」:「研」 159
 香月 弘太郎*(北海道大学大学院 環境科学院), 根岸 淳二郎(同), 萱場 祐一(土木研究所 自然共生研究センター)
- 9-9**. 「**知多半島におけるため池の水質と環境要因との関係**」:「研」 163
 木塚 俊和*(名古屋大学大学院 環境学研究科), 富田 啓介(同), 北島 淳也(同)
- 9-10. 「**手賀沼における懸濁粒子吸着態リンの画分について**」:「研」 167
 篠原 隆一郎*(東京大学 新領域創成科学研究科), 磯部 彦(同)
- 9-11. 「**河川改修の影響を受けたサロベツ泥炭地ドームドボグでの地下水溶存態有機炭素の動態**」:「研」 169
 山田 浩之*(北海道大学 農学研究院農林環境情報学研究室), 田中 祥人(北海道大学農学院 農林環境情報学研究室), 平岡 亮太郎(同), 平野 高司(北海道大学 農学研究院農林環境情報学研究室)

【ポスター賞審査結果発表】 9月23日(木) 9:15~

[会場:4F 大会議室]

9:15~ **ポスター賞 審査結果発表・表彰ポスター掲示**

※ ポスター賞表彰式は、23日 18:30 からの懇親会(ホテル札幌ガーデンパレス 孔雀の間 札幌市中央区北1条西6丁目 TEL:011-261-5311)にて行います。

※ 審査対象・審査項目については、本プログラムの8ページをご覧ください。

1-6 発表番号の斜体は審査対象

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

※タイトルの後の「研」は研究報告,「事」は事例報告,「他」はその他

口頭発表 9月23日(木) - 3日目 - 09:30~15:15

[会場:4F 大会議室]

セッション1 貯水池と下流域の環境変化

- 9:30 1-1. 「**ダム下流における河道状況変化予測技術(道具箱)の検証ーダム下流河道の変化の理解のためにー**」:「研」171
 山原 康嗣*(中電技術コンサルタント(株)), 関根 秀明((株)建設技術研究所), 峰松 勇二(中電技術コンサルタント(株))
- 9:45 1-2. 「**運用初期のダムによる流下有機物の変化とその河床生物群集への影響**」:「研」173
 吉村 千洋*(東京工業大学), 葛口 利貴(岐阜大学), 小林 慎也(同), 廣岡 佳弥子(同), 李富生(同)
- 10:00 1-3. 「**ダム下流における付着性藻類の異常繁茂特性とその要因**」:「研」175
 赤松 良久*(山口大学大学院 理工学研究科社会建設工学専攻), 二瓶 泰雄(東京理科大学 理工学部土木工学科), 矢口 宏則(同)
- 10:15 1-4. 「**河床材料における中間径礫の欠乏と底生動物に対するその意義**」:「研」177
 小林 草平*(土木研究所), 矢島 良紀(同), 赤松 史一(同), 中西 哲(同), 三輪 準二(同), 天野 邦彦(国土技術政策総合研究所)
- 10:30 1-5. 「**河床材料の形態分類の定量化にむけた一研究**」:「研」179
 関根 秀明*((株)建設技術研究所), 坂本 健太郎(同), 浅枝 隆(埼玉大学)
- 10:45 **1-6**. 「**大山ダムにおけるブチサンショウウオの保全対策**」:「事」181
 村田 裕*(独)水資源機構大山ダム建設所 環境課), 五十嵐 昇(同), 西川 英之(同)
- 11:00 1-7. 「**ダム湖岸におけるヤナギ類の生育特性に関する報告**」:「事」183
 須藤 和恵*(アジア航測(株)東北コンサルタント部 環境計画課), 藤原 孝史(国土交通省 東北地方整備局月山ダム管理所), 堀江 尚子(同), 山口一彦(アジア航測(株)東北コンサルタント部 環境計画課)
- 11:15 1-8. 「**ダム前貯水池における湖岸植生の生態特性と窒素利用形態**」:「研」185
 福山 朝子*(埼玉大学大学院 理工学研究科), 中村 祐太(同), 浅枝 隆(同), 浅見 和弘(応用地質(株))
- 11:30 **1-9**. 「**黒部川の砂州における樹林化の拡大状況とその要因について**」:「研」187
 坂本 健太郎*((株)建設技術研究所), 関根 秀明(同), 武田 英祐(同), 川嶋 崇之(同), 福山 朝子(埼玉大学大学院 理工学研究科), 中村 祐太(同), 大山 恭平(同), 菅原 久嗣(同), 王 聰(同), 浅枝 隆(同)
- 11:45 1-10. 「**ダム排砂による砂州上の栄養塩動態と樹木分布の関係**」:「研」189
 川嶋 崇之*((株)建設技術研究所), 関根 秀明(同), 坂本 健太郎(同), 武田 英祐(同), 大山 恭平(埼玉大学大学院 理工学研究科), 中村 祐太(同), 王聰(同), 菅原 久嗣(同), 福山 朝子(同), 浅枝 隆(同)

12:00~13:15 一休憩一

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

※タイトルの後の「研」は研究報告,「事」は事例報告,「他」はその他

口頭発表 9月23日(木) -3日目- 09:30~15:15

【会場:4F 大会議室】

セッション2 魚類の生息環境評価

- 13:15 2-1. 「福岡県空見川、樋井川におけるシロウオの産卵環境」:「研」191
伊豫岡 宏樹*(福岡大学 工学部社会デザイン工学科), 山崎 惟義(同), 皆川 朋子(同), 渡辺 亮一(同)
- 13:30 2-2. 「漁業協同組合と連携した漁場モニタリング組合員によるアユ漁場評価と河床材料との関係」:「研」193
内田 哲夫*(埼玉大学大学院 理工学研究科), 浅枝 隆(同), 井口 忠男(魚沼漁業協同組合), 伊藤 陽人(新潟県内水面水産試験場)
- 13:45 2-3. 「夏期水温からみた魚類生息環境改善工事12年後の評価」:「研」195
長坂 晶子*((独)北海道立総合研究機構 林業試験場), 佐藤 弘和((独)北海道立総合研究機構), 下田 和孝((独)北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場), 長坂 有((独)北海道立総合研究機構 林業試験場), 川村 洋司((独)北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場), 神力 義仁(同)
- 14:00 2-4. 「河川性サケ科魚類の生息密度が上流ほど高くなる理由-バイオエナジェティックモデルによる検討-」:「研」197
小寺 信義(愛媛大学 理工学研究科), 菊地 修吾(同), 井上 幹生*(同)
- 14:15 2-5. 「ファジィ生息場選好性モデルを用いた九州北西部におけるモツゴの生息環境評価」:「研」199
福田 信二*(九州大学熱帯農学研究センター、ゲント大学), Bernard De Baets(ゲント大学), 鬼倉 徳雄(九州大学大学院農学研究科), 中島 淳(福岡県保健環境研究所), 向井 貴彦(岐阜大学地域科学部)
- 14:30 2-6. 「異なる冠水頻度をもつ氾濫原水域における四季および出水前後を通じた魚類群集構造の変化」:「研」201
永山 滋也*(独)土木研究所 自然共生研究センター), 根岸 淳二郎(北海道大学大学院 地球環境科学研究科), 萱場 祐一((独)土木研究所 自然共生研究センター)
- 14:45 2-7. 「野生動物自動行動追跡システムを用いた降下期のアユ行動特性の把握」:「研」203
額瀨 渉*(応用地質(株) エンジニアリング本部 応用生態工学研究所), 傳田 正利((独)土木研究所 水環境研究グループ 河川生態チーム), 浅見 和弘(応用地質(株) エンジニアリング本部 応用生態工学研究所), 三輪 準二((独)土木研究所 水環境研究グループ 河川生態チーム), 黒川 貴弘((独)土木研究所 水環境研究グループ 河川生態チーム), 和田 弘(応用地質(株) エンジニアリング本部), 渡辺 仁(日本工営(株) 社会システム事業部 環境部)
- 15:00 2-8. 「サイフォン型パイプ魚道の機能試験」:「研」207
赤司 信義*(西日本工業大学), 石川 誠(同), 太田 有生夫(同)

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

※タイトルの後の「研」は研究報告,「事」は事例報告,「他」はその他

口頭発表 9月23日(木) -3日目- 09:30~15:15

【会場:8 F 820 研修室】

セッション3 植生管理と立地の評価

- 9:30 3-1. 「水湿植物回復のための休耕田の湛水管理と土壌攪乱」:「事」 209
高野瀬 洋一郎*(新潟大学・超域研究機構), 石田 真也(新潟大学大学院・自然科学), 紙谷 智彦(同),
- 9:45 3-2. 「ウトナイ湖北岸における河川改修・湖沼水位管理が氾濫源の水文環境と植生に与える影響」:「研」 211
平岡 亮太郎*(北海道大学 農学院農林環境情報学研究室), 山田 浩之(北海道大学 農学研究院農林環境情報学研究室), 矢部 和夫(札幌市立大学 デザイン学部空間デザインコースエコロジカルデザイン)
- 10:00 3-3. 「湿原縁辺部の自然再生工に見る生物相の変化-北海道東部霧多布湿原の事例-」:「事」 213
志田 祐一郎*(株)生生物総合研究所), 安細 元啓(同), 河原 淳(NPO 法人霧多布湿原トラスト), 高井 文子(同), 伊東 俊和(同), 辻井 達一((財)北海道環境財団)
- 10:15 3-4. 「ネコヤナギによる既設コンクリート護岸の緑化工法の開発」:「他」 215
帆足 建八*(松本技術コンサルタント(株)), 工藤 真之助(同)
- 10:30 3-5. 「冠水を受ける環境下での河畔林造成と立地の改善」:「研」 219
長坂 有*(北海道林業試験場), 長坂 晶子(同)
- 10:45 3-6. 「治水と環境の両側面に配慮した河道内樹木群の伐採・保全に関する水理的評価」:「事」221
小澤 宏二*(いであ(株)), 高橋 眞彦, 小林 祐也

セッション4 外来種・河畔景観・モデリング

- 11:00 4-1. 「灌漑用湧水池におけるオオクチバス除去後の魚類群集の回復」:「研」 225
田頭 亮臣*(愛媛大学大学院理工学研究科), 藤原 結花(愛媛大学理学部), 川西 亮太(愛媛大学大学院理工学研究科), 井上 幹生(同)
- 11:15 4-2. 「ダム貯水池の水位低下操作を利用したブルーギル防除の試みー三春ダムでの試験研究ー」:「研」 227
大杉 奉功*(財団法人ダム水源地環境整備センター 研究第三部), 岩見 洋一(財団法人ダム水源地環境整備センター 研究第三部 部長), 熊澤 一正(応用地質(株)応用生態工学研究所), 瀨藤 渉(同), 土岐 範彦(国土交通省 東北地方整備局 三春ダム管理所 水質係長), 中沢 重一(国土交通省 東北地方整備局 三春ダム管理所 所長)
- 11:30 4-3. 「利根川下流域における特定外来生物カワヒバリガイの生息分布と管理方策の検討」:「事」 229
福元 博行*(国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所), 小栗 幸雄(同), 大澤 寛之(株式会社エコー), 益子 隆一(同), 平田 真二(同)
- 11:45 4-4. 「河畔域のコウモリ類における局所/景観スケールそれぞれへの環境要求と相対的重要性」:「研」 233
赤坂 卓美*(北大院・農), 赤坂 宗光(国立環境研究所), 柳川 久(帯広畜産大学)

12:00~13:15 -休憩-

- 13:15 4-5. 「砂礫州における洪水攪乱強度を評価する指標と生物多様度の関係について」:「研」 235
田中 規夫*(埼玉大学大学院 理工学研究科), 八木澤 順治(同), 菊次 祐(同)
- 13:30 4-6. 「SWAT モデルを用いた流出量予測:北海道美々川流域への適用」:「事」 239
三島 啓雄*(Natural Resources Research), 柳井 清治(石川県立大学)
- 13:45 4-7. 「インガイ目二枚貝の有する水理特性に関する研究」:「研」 243
林 博徳*(九州大学大学院 工学研究院環境都市部門), 島谷 幸宏(同), 小崎 拳(九州大学大学院 工学府都市環境システム工学専攻), 辻本 陽琢(国土交通省港湾局技術企画課)

セッション5 汽水・干潟の応用生態工学

- 14:00 5-1. 「汽水性二枚貝の生息を考慮した河川感潮域の物質動態の定量評価」:「研」 247
古畑 寿*, 辻本 哲郎(名古屋大学大学院 工学研究科)
- 14:15 5-2. 「土地利用改変が風蓮湖の低次生物生産過程に及ぼした影響評価」:「研」 249
門谷 茂*(北海道大学大学院 環境科学院), 真名垣 友樹(同), 柴沼 成一郎(同)
- 14:30 5-3. 「水温・塩分濃度に対する生存試験結果を用いた河口域リュウキュウアユ仔稚魚生息場評価」:「研」 253
大槻 順朗*(九州大学大学院 工学府都市環境システム工学専攻 日本学術振興会特別研究員), 岸野 底(河川環境調査), 安尾 隼人(大分県庁), 四宮 明彦(鹿児島大学水産学部 教授), 島谷 幸宏(九州大学大学院 工学研究院環境都市部門 教授)
- 14:45 5-4. 「創出された砂質干潟へのマクロベントス加入・生活史パターン」:「研」 255
丸岡 篤史*(阿南工業高等専門学校・構造設計工学専攻), 大田 直友(阿南工業高等専門学校・建設システム工学科), 河井 崇(阿南工業高等専門学校・地域連携テクノセンター)
- 15:00 5-5. 「浚渫土で絶滅危惧種を救えるか?!ー干潟創出における航路浚渫土の有効性検証」:「研」 257
大田 直友*(阿南工業高等専門学校・建設システム工学科), 河井 崇(阿南工業高等専門学校・地域連携テクノセンター)

【口頭発表賞・ポスター発表賞について】

札幌大会では、口頭発表賞については合計2件程度、ポスター発表賞については合計4件程度の賞を企画し、選考された発表者に授与します。

【審査対象】 各賞の審査対象者は、主たる発表者が『学生・ポスドク研究者』および『現場技術者・行政担当者』のうち、「審査への申込み」を行った発表を対象とします。

【審査項目】 なお、その審査は、①応用生態工学的な論点の明確さ、②論理の明確さ、③学術的な獨創性、④発表のわかりやすさ(字体、レイアウト、話術等)、⑤今後の自らの取り組みに参考になったかどうか、5点から総合的に審査を行います。

【審査結果発表】 **ポスター発表賞** : 9月23日(木) 9:15より、4F大会議室前に表彰ポスターを掲示します。

また、ポスター賞表彰式は、23日18:30からの懇親会(ホテル札幌ガーデンパレス 2階孔雀の間)にて行います。

口頭発表賞 : 審査結果は、12月発行のニューズレター(Vol.50)と学会ホームページにて発表いたします。

【自由集会】**「札幌の川、ざわめく自然を体験しよう!～研究者といっしょに魚とり～」****9月23日(木)ー3日目ー 10:00～15:30****【会場：札幌市豊平川さけ科学館・】**

開催趣旨：札幌で応用生態工学会が開催される機会に、札幌市民に「応用生態」の分野を知ってもらい、学会員にも市民の活動を紹介するために企画しました。

札幌に集まった会員と市民と一緒に川を歩き、川の地形や生きものについて学びます。とくに、会場近くの豊平川では、砂礫の流失による河床低下がおきて近年岩盤が露出したため、現地見学と川の模型実験によりメカニズムを詳しく学びます。また、サクラマスが産卵する小さな支流では、魚とりをしながら魚や水生昆虫がどのように川の砂礫や植物を利用しているか、人為的改変はそれらの生き物にどのような影響を与えるかといった研究を子どもたちに紹介します。さらに、会場近くの岩盤化した真駒内川で、砂礫を堆積させる取り組みにより、サクラマスの産卵環境が復元した事例を紹介します。

市民にはあまり知られていない分野の研究や対策と一緒に楽しく学びたいと考えています。プログラムについては、同封のチラシをご参照ください。

場 所：札幌市豊平川さけ科学館（住所：札幌市南区真駒内公園 2-1 電話：011-582-7555）

現地案内：池田宏（元つくば大学）、河口洋一（徳島大学）、三宅洋（愛媛大学）、渡辺恵三（(株) 北海道技術コンサルタント）

定 員：学会員 10 人（先着順）

参 加 費：ひとり 200 円

応募方法：下記を明記し、手稲さと川探検隊代表 鈴木玲（aasuzuki@pop11.odn.ne.jp）宛にメールを送ってください。

件名「応用生態工学会自由集会申し込み」

本文「氏名、メールアドレス、当日の連絡先（携帯電話など）、参加人数」

主 催：応用生態工学会札幌

共 催：札幌市豊平川さけ科学館

協 力：手稲さと川探検隊、真駒内川水辺の学校

※大会の会場（かでのホール）から自由集会の場所までは約 7km 離れています。

交通手段がご不明な場合は、申し込み時にお問い合わせください。

【自由集会・応用生態工学会 札幌】**「ザリガニの保全」 9月23日(木、祝)ー3日目ー 13:30～18:00【会場：5 F 520 研修室】**

企画：応用生態工学会 ザリガニ研究会（事務局：山田浩行）

趣旨：日本には 3 種類のザリガニ類が分布しています。在来種のニホンザリガニ、そして外来種のウチダザリガニとアメリカザリガニです。ニホンザリガニは環境省を始めとした各行政機関により希少な種として位置づけられ、保全が必要となっています。一方、ウチダザリガニは環境省により特定外来生物に指定され、同じくアメリカザリガニは要注意外来生物で、防除等の対応が必要です。このようにザリガニ類は、我々が何らかの対応をすべき種になっております。

日本では、今後どのような形で、どのような方向でザリガニ類とつきあうのか？これを生態工学の視点で議論したいと思えます。希少な在来ザリガニ類の保全で先進的な取り組みをしている英国から講演者を招き、先端的な知見を紹介してもらいます。続いて国内のザリガニ類についての先進的な取り組みも紹介し、活発な議論を喚起します。

なお、北海道は 3 種類のザリガニ類が、すべて分布するので、ザリガニ類の保全にとっては「ホットスポット」です。ここで最新の知見を普及し、意見や情報を交換し、今後の活動が一層活発になることを狙います。

主な内容： ◆趣旨及び経緯の説明 13:30～13:40 （川井：稚内水試）

◆基調講演「英国のザリガニ類保全」（ロジャース教授：ダービー大学）13:40～14:40

◆ポスター発表（ザリガニの保全技術紹介を中心とする）14:40～15:40

◆話題提供

・鹿の子ダムでの活動報告（山田：ザリガニ研究会）15:40～16:10

・市民による保全、ザリガニソンの紹介（田中：ザリガニソン実行委員会）16:10～16:40（休憩）16:40～17:00

・湧水と底質の調査方法と実態（池田：パシコン）17:00～17:20

・物理環境による生息場所の分類と源流域保全への示唆（布川：専修大、川井：稚内水試）17:20～17:40

・意見交換と総合討論 17:40～18:00 司会（川井：稚内水試）

【自由集会・COP10 対応WG・伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発研究グループ】**「流域圏から考える生物多様性保全」 9月23日(木)ー3日目ー 15:30~17:00****[会場: 4 F大会議室]**

企画: 応用生態工学会 COP10 対応WG (代表: 辻本哲郎)

文部科学省・科学技術振興調整費「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」研究グループ (代表: 辻本哲郎)

趣旨: 2010年10月名古屋においてCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催されます。応用生態工学会では、この機会を、応用生態工学に基づく生物多様性の保全シナリオを提案する絶好の機会と捉え、2010年5月に

「生物多様性保全に向けた応用生態工学からのアプローチ~COP10名古屋に向けて~」という国際ワークショップを開催しました。

国際ワークショップでは、「景観・生息場の保全・修復」、「水・物質フラックスネットワークの健全化」、「都市の責任」の3つを軸としながら、生物多様性保全に向けた行動を実践し、自然共生型流域圏の構築を目指すという行動計画が提言され、それらは「生物多様性保全に向けた応用生態工学からのアピール」として取りまとめられました。本自由集会では、この国際ワークショップの開催概要とそこで取りまとめられたアピールの内容について紹介します。また名古屋COP10を契機に進められる今後の生物多様性保全戦略を応用生態工学会がどう担っていくかもポイントです。

さらにこのアピールと共鳴して伊勢湾流域圏を舞台として展開されている自然共生型環境管理技術開発研究プロジェクト(代表: 辻本哲郎)の中で、どのような実践戦略が立てられ、その技術開発がどの程度まで進捗しているかを紹介し、21世紀における持続可能な流域圏構築のための応用生態工学の役割を会員の皆さんと一緒に考えたいと思っています。

主な内容:

- ・趣旨及び経緯の説明
- ・国際ワークショップ報告
 - ・景観・生息場の保全・修復
 - ・水・物質フラックスネットワークの健全化
 - ・都市の責任
 - ・生物多様性保全に向けた応用生態工学からのアピール
- ・伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発の戦略と進捗について
- ・総合討論

【自由集会・英語セッション】**「Prof. Cliff Dahmと議論してアドバイスをもらおう」 9月23日(木)ー3日目ー 15:30~18:00****[会場: 10 F 1030 会議室]**

企画: 根岸淳二郎

趣旨: ニューメキシコ大学のProf. Cliff Dahmは、海洋学のバックグラウンドを持ちながら河川生態系のおもに物質循環や微生物生態学の専門家として数多くの研究および多くの学生の指導を経験されています。このたび応用生態工学会札幌大会へ基調講演者として招聘します。この機会を利用して主に大学院生やポスドクなどの若手研究者を対象として、研究に関する議論をしてアドバイスをもらうというセッションを企画します。各人に対して15-20分程度の時間を割り当て、その中で表現方法は自由です(基本路線はパワーポイントのプレゼンあるいは印刷物を見せての研究紹介とそれにつづくディスカッション)。英語による研究についての意見交換の訓練ですので、1対1のやりとりを基本にしますが、必要に応じて企画側(根岸淳二郎他数名)が英語通訳のサポートをすることで充実した意見交換の場を提供したいと思います。世界的に著名な研究者と個人的に議論できる貴重な機会なので是非活用して今後の研究活動の発展に生かしていただけたらと思います。なお、真剣な議論への相応の準備をお願いしますが、お茶を飲みながらのインフォーマルな雰囲気で行いますので、あまり構えずに参加を前向きに検討していただけたらと思います。

主な内容:

- ・研究内容の説明
- ・Prof. Cliff Dahmからの質問とそれに対する回答
- ・議論を通してアドバイスを受ける

【自由集会・若手の会】

「もっと読みたい事例研究～量は質へ転換する～」 9月23日(木)ー3日目ー 15:30～17:00

【会場：10F 1040 会議室】

企画：応用生態工学会 若手の会（担当：永山滋也）

主旨：生態系がどうなっているのか？人為インパクトに対する生物の応答は？現状の河道が形成されたメカニズムは？土砂は、水は、物質はどう動くのか？これらの問いへの解答は、環境の保全や再生事業に対し、より科学的な根拠や配慮事項を提示し、綿密な計画立案を可能にする。こうした、どちらかと言えば基礎科学的な研究が、これまで盛んに行われてきた。

では、どうすれば生態系を保全・再生できるのか、解明されたキーファクターを動かすために、どんな条件下でどんな技術が必要なのか？そうした現場のための具体的な解答は、多くの場合そこには用意されておらず、現場の技術者（実務者）に委ねられる。その一つの大きな原因は、調査サイトや事業対象地毎に特性が異なるゆえ、対処方法を一般化しにくいことが上げられよう。

重要なことは、応用生態工学は“臨床（特に、臨床外科）”であって、“基礎”の追求ではない（はず）という点である。臨床外科であるからには、様々な制約条件の下で患者（現場）と対峙し、オペを施し、それを検証して、次のオペや患者に活かすという経験を積み重ねることが必要である。しかし、個人の経験には限界がある。だから、臨床外科医は、病気に関する基礎的知識だけに留まらず、他の臨床事例を多く知ろうとする。いわば、量（事例）を質（治療やオペの手法）へ転換させるのである。この姿勢は、応用生態工学にも必要であると思えてならない。

事例研究やレポートの発表は、臨床事例を共有するための一つの有効なツールではないだろうか。本集会では、いくつかの応用生態工学的な事例報告から、事例の共有化を図る意義を考え、さらにペーパーとしての事例研究に要求される編集者サイドの見解を交え、事例研究発表の活性化に寄与する議論を行いたい。

プログラム

1. 開会
2. 挨拶と趣旨説明 永山滋也 (10分)
3. 事例報告（発表+質疑 15分×3件=45分）
 - ・久加朋子（京都大学・工学）
 - ・佐川志朗（土木研究所・自然共生研究センター）
 - ・坪谷太郎（北海道技術コンサルタント・川づくり計画室）
4. 中間討論（10分）
5. 事例研究に求められること（中村太士 北海道大学農学研究院 教授）（発表+質疑 15分）
6. 総合討論（20分以上）
7. 閉会
8. 懇親会

【懇親会】 9月23日(木) 18:30～20:30

【会場：ホテル札幌ガーデンパレス 2階 孔雀の間】

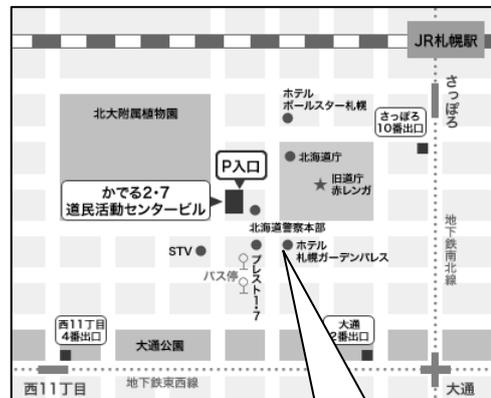
応用生態工学会の各地方研究会の活動紹介（パネル展示・口頭発表）、ポスター賞表彰式を行います。

参加料： 5,000円（当日参加:6,000円）

会場： ホテル札幌ガーデンパレス 2階 孔雀の間
札幌市中央区北1条西6丁目

電話：011-261-5311

FAX：011-251-2938



ホテル札幌
ガーデンパレス
2階 孔雀の間

流域スケールでの生態系サービスの最大化

～景観要素・物質循環・ハビタットを総合的に考える～

地球レベルでの温暖化や気候変動の影響が懸念される一方で、土地利用の変化などに伴って生活に密着した地域レベルでの自然環境が大きく変化している。その結果、生態系サービスとして人間が受ける恩恵が、多くの場合は低下している。受益している生態系サービスを認識し、維持し、必要に応じてその機構となるプロセスを再生することが今後ますます求められてくると考えられる。

自然界の様々なプロセスにおいて最も重要な役割を果たすのは水の流れであり、水の流れの空間的な広がりをつながりを表す“流域”という単位は自然資源管理の観点から非常に有用である。水の流れによって物質循環が上 - 中 - 下流 - 沿岸域へと連続性を呈するので、流域内・沿岸域に多様な空間スケールで存在する様々な景観要素内部でのプロセスを理解し、それらの相互作用を考慮した上で統合的な対策をとることが流域管理の観点から重要になる。

本シンポジウムでは、カリフォルニアデルタにおける大規模な自然再生事業の概要等について基調講演していただく。また、流域を大きく3つの生態系（上流森林流域、河川中流域、汽水沿岸域）と区分し、各系において物質循環やそのハビタットへのつながりに関する研究知見を国内招待講演者より分かりやすくご紹介いただく。主に基盤・調整・供給にかかわる生態系サービスに焦点を当て、各生態系内・間のプロセスから流域としてのサービスを最大化するための方策を応用生態工学視点から議論し、効率的な流域管理の在り方を模索したい。

9月24日(金) 13:00~17:00

13:00 開会 中村太士 (北海道大学大学院農学研究院 教授/大会実行委員長)

13:10 招待講演 Clifford Dahm (Lead Scientist - Delta Science Program - Sacramento, California (and) Professor - University of New Mexico - Albuquerque, New Mexico - USA)

『Perspectives on Restoring the California Delta』

14:00 講演1 柴田英昭 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授

『北海道北部の森林流域における生態系機能とサービスの特性』

講演2 根岸淳二郎 北海道大学大学院地球環境科学研究院 特任助教

『河川景観の変化とそれに対応した生物相の成り立ち-木曾川中流域生態系サービスの維持機構』

講演3 白岩孝行 北海道大学低温科学研究所 准教授

『鉄の供給源としての湿原-アムール川流域とオホーツク海・親潮に見る物質・生態系連環-』

15:15 休憩

15:30 パネルディスカッション

コーディネータ: 中村太士 北海道大学大学院農学研究院 教授

パネリスト: 柴田英昭 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授

白岩孝行 北海道大学低温科学研究所 准教授

根岸淳二郎 北海道大学大学院地球環境科学研究院 特任助教

Clifford Dahm ニューメキシコ大学 教授

*この記念シンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施します。

*公開で無料の催しですが、席に限りがありますので事前にお申し込みください。

<応用生態工学学会によるこれまでの公開シンポジウム(開催年, タイトル, 招聘者)>

2004年, 『人為改変された河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント』, 韓ミョンギ大学ユン教授・プサン国立大学ジョー教授

2005年, 『比較応用生態工学 - 生態系, 風土そして文化』, 中国香港大学ダジョン教授

2006年, 『総合的河川再生プロジェクト: 基礎科学と実務との連携』, スイス連邦環境科学技術研究所トクナー博士

2007年, 『生命の水を人と生物はいかに分かちあうか』, 米Global Water Policy Project サンドラ・ポステル理事

2008年, 『自然再生の課題と展望』, <日本景観生態学会, 日本緑化工学会との共同開催>

2009年, 『応用生態工学のフロンティア-新技術の開発と持続的な発展-』, 山室真澄(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授), 藤田光一(国土交通省国土技術政策総合研究所流域管理研究官)